十勝毎日新聞　令和5年1月1日付　81面

十勝川

治水100年 食糧基地守る

十勝川の治水事業開始から今年、100周年の節目を迎えた。十勝の開拓の歴史を下支えし、日本屈指の食糧基地として発展してきた自然豊かな十勝平野は治水によって守られ、育まれてきた。（荒戸雅美）

流下能力を上げるため15㌔に渡って掘削され完成した統内新水路（ドローンで塩原真撮影）

十勝管内は、帯広などの市街地を十勝川が横断するように流れ、さらに札内川、音更川などの1級河川が合流している。人口が密集する市街地を河川が取り囲む地形は全国的にも珍しく、明治以来の開墾作業は、十勝川水系の洪水、水害との闘いの連続だった。

このため、地域住民の生命、財産、産業を守るための治水事業はいくつもの難題を抱えていた。

1918年、十勝川治水計画大綱が定められたものの、22年に千代田下流から大津まで広範囲で冠水。死者9人を出した未曽有の大洪水が発生したことを受け、同大綱を改定。翌23年、十勝川治水事務所が現在の帯広市大通南1に開設されたのを機に、治水事業が本格的に始まった。

当時の十勝川は、千代田から茂岩にかけて大きく蛇行していたため、下流周辺で水害が多発。流下能力を上げるため、約15㌔に及ぶ統内新水路の掘削工事が行われた。水路の掘削には「エキスカベーター」という機械が使われたほか、刑務所の受刑者も動員されるなど大規模工事だった。

また、河道が狭く洪水が頻発していた当時の十勝川（現在の浦幌十勝川）の流路を大津川（現在の十勝川）へ切り替えたものの、水量が減少し、河口閉塞（へいそく）が発生したため、浦幌十勝導水路を建設し、河川機能を再生。このほか、川幅が極端に狭く、大きく湾曲していた音更木野地区の堤防を最大130㍍堤内側に作り直す引堤事業が行われた。住民の移転が必要で、当時を知る関係者は「先祖代々の土地から離れてもらわなければならず、住民の協力なくしてできなかった」と振り返った。

この100年の治水事業に関わった人たちは数え切れないほどだが、「治水事業は息の長い取り組み。長期的なスパンでみたときに、しっかりと治水事業の効果が出ていると実感できたのは2016年の豪雨災害で十勝川が氾濫しなかったことだ」と多くの関係者が口にした。

近年では、治水事業の一環として官民連携による「川づくり」もさかんだ。川で遊んで川を知る「水辺の学校」や川のユニバーサルデザイン、企業と高校生による河川敷の草地復元、まちづくりと一体となった環境学習や体験イベントといった水辺空間の利用などを展開している。

100周年を迎えた今年、帯広開発建設部は秋にかけて関係機関と連携した記念事業を計画している。記念式典はもとより、帯広開建が管理する閉鎖中の十勝川インフォメーションセンターの改修・再開、治水史の編さん・発行も予定している。

市街地囲む河川 下流を改良

治水100年を記念したロゴマーク。左は小林幹男帯広開発建設部長、右は記念事業実行委員の石原由美子さん

増水の原因となる木を伐採した十勝川河川敷に、種を植えて草地復元に取り組む帯広農高の生徒（2021年7月）

十勝川　新得町の十勝岳近くに端を発し、芽室川や音更川、札内川、利別川などと合流して、豊頃町大津で太平洋に注ぐ1級河川。幹川流路延長（河口から水源までの距離）は156㌔、流域面積は9010平方㌔で、十勝の総面積の約8割を占める。長さは石狩川、天塩川に次ぐ道内3位。広さは石狩川に次ぐ道内2位で、全国でも6位となっている。

十勝川治水100年

十勝毎日新聞　令和5年1月1日付　82面

洪水防ぐ 積年の努力

十勝川治水事業開始から100年。この間、洪水被害から地域を守るため、堤防築造や新水路掘削、護岸工事やダム建設など、さまざまな事業が行われてきた。十勝川水系の主要施設などを紹介する。（ドローンで塩原真撮影。一部を除く）

十勝川上流の要

十勝ダム　十勝川水系の治水安全度と電力供給の向上を図るため、洪水調節と発電を目的にした多目的ダムとして建設された。

水系最大の堤高

札内川ダム　洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水、水道用水の供給、発電を目的とした多目的ダムとして建設。114㍍の堤高は水系最大。

水防技術の粋ここに

千代田堰堤（えんてい）と新水路

池田町の利別、千代田地区に広がっていた水田に水路を引くと同時に、河床洗掘対策も兼ねて設置され、1975年洪水の被害を受け、堰堤が2段階に増設された。また、洪水時の流下能力を上げるために新水路を整備。国内初となる実物大の水理模型実験を可能とする実験水路も整備された。

守られた都市部

帯広の市街地　十勝川と札内川に囲まれた帯広市街地。多くの住民が暮らす市街地を守るため、下流から治水事業が進められた結果、2016年の豪雨災害で十勝川の氾濫を防いだ（帯広開発建設部提供）

川と川つなぎ 河口閉塞防ぐ

浦幌十勝導水路

洪水防止で浦幌十勝川を締め切ったものの、河川流域の低下で河床に土砂が堆積し、河口閉塞（へいそく）が発生したことから、再び十勝川とつなげるために整備された。

十勝川治水100年

明治

1898　洪水、死者21人、被害家屋2544戸、氾濫面積5989㌶

大正

1919　洪水、死者3人以上、氾濫面積3万4900㌶

1922　洪水、死者9人、被害家屋4478戸、氾濫面積5243㌶

1923　帯広に十勝川治水事務所開設（大通南1丁目）

昭和

1928　帯広治水事務所開設。十勝川、統内新水路着手

1935　千代田堰堤（えんてい）完成

1936　洪水、十勝・釧路両管内死者1人、被害家屋968戸、氾濫面積4614㌶

1937　十勝川の統内新水路、通水。利別川の川合新水路工事始まる

1948　札内川堤防整備本格着手

1950　利別川の川合新水路工事、再開

1951　音更川堤防整備本格着手

1956　川合新水路に通水、今の浦幌十勝川の堤防整備本格着手

1962　台風による大雨・洪水、死者・行方不明者4人、被害家屋3793戸、氾濫面積4万0768㌶

1963　十勝川トイトッキ築堤を締め切り大津川に切り替え

十勝川毛根中島河道切り替え工事

1965　十勝川下流部のしゅんせつ事業

1972　洪水、死者5人、被害家屋3013戸、氾濫面積3万0729㌶

帯広排水機場完成

札内川上流域で砂防堰堤・床固工群整備を開始

1973　十勝ダム建設着手（1984年完成）

1975　洪水、被害家屋186戸、氾濫面積2698㌶

1978　下牛首別排水機場完成

1980　十勝川河口締切堤工事に着手

1981　洪水、被害家屋355戸、氾濫面積7017㌶

1982　浦幌十勝導水路完成

1983　池田排水機場完成

1985　札内川ダム建設着手（1998年完成）

十勝川・十勝大橋上下流で引堤と低水路切り替えに着手

1988　洪水、被害家屋279戸、氾濫面積366㌶

1989　洪水、被害家屋34戸、氾濫面積3940㌶

育素多排水機場完成

平成

1992　高島橋・高島頭首工の改築着手

1995　十勝大橋完成

1998　洪水、被害家屋286戸、氾濫面積1907㌶

2001　洪水、被害家屋11戸、氾濫面積298㌶

2002　相生中島地区整備に向けた川づくりワークショップ設置

2003　洪水、被害家屋51戸、氾濫面積369㌶

2007　十勝川、千代田新水路完成

2009　十勝川、相生中島地区整備着手

2016　洪水、死者・行方不明者2人、被害家屋356戸、氾濫面積1412㌶

十勝川治水100年